

低頻度大水害ハザードマップ検討会について

参考資料-1

低頻度大水害ハザードマップ検討会の設置

目的: 1/1000年程度の低頻度大水害を想定し、ハザードマップの作成、対策の検討を行うことで、河川管理者、地方自治体の危機管理能力の向上を図る。

委員(案)

清水 康行 北海道大学大学院工学研究院 教授
鈴木 英一 北海道大学大学院工学研究院 特任教授
中津川 誠 室蘭工業大学くらし環境系領域 社会基盤ユニット 准教授
平井 康幸 寒地土木研究所寒地水圏研究グループ寒地河川チーム上席研究員
地方自治体防災担当者

検討の進め方

- ① 1/1000年確率降雨の想定方法の検討: 確率、引き伸ばしの方法等の検討
- ② ケーススタディとして浸水想定区域図の作成: 問題点の抽出
- ③ ケーススタディとして洪水ハザードマップの作成: 避難路、避難所の選定方法等の検討
- ④ ケーススタディとして市町村の地域防災計画(案)の検討

① 低頻度大水害ハザードマップ作成マニュアルの作成

② 低頻度大水害に対する市町村地域防災計画(案)の作成

施策の効果

- ① 他河川において浸水の作成
- ③ 地方自治体の防災計画への反映
- ④ 開発局防災業務計画への反映

ソフト主体の対策の推進